こども
子供のインターネットバイブル

あんない
案内いたします

かみ
神さまに仕える

文: Edward Hughes

絵: Janie Forest; Alastair Paterson

改作者: Lyn Doerksen

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

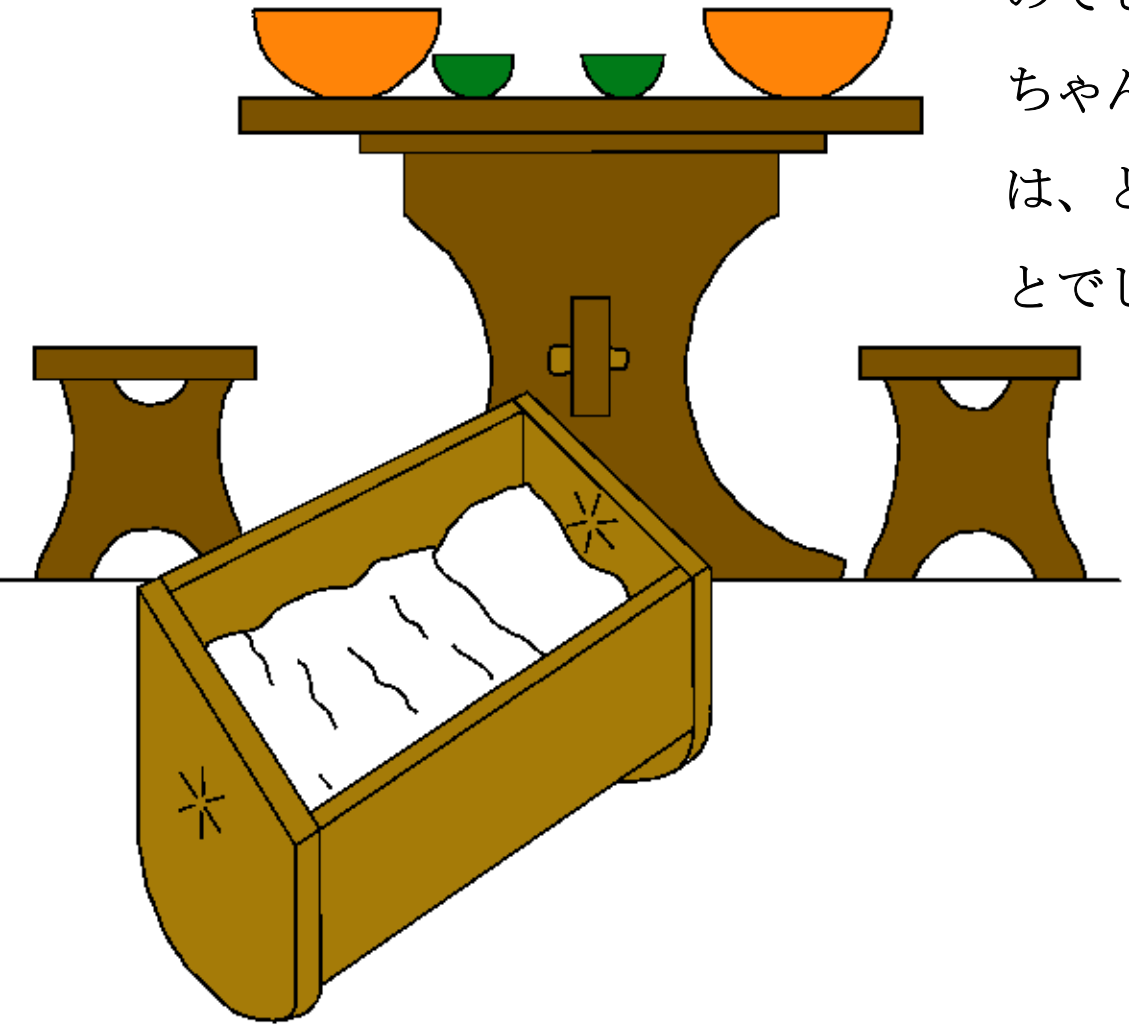
出版社: Bible for Children

www.M1914.org

©2021 Bible for Children, Inc.

許可： 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

ハンナという、とても心やさしい女の人がいましたよ。その夫エルカナも、ほんとうに良い人でした。２人とも神さまを礼拝し、ほかの人にもやさしくしんせつでした。でもね、ハンナは、なぜかさびしそう。何か思っていることがあるのでしょうか。じつは、ハンナは、赤ちゃんがほしかったのです。かの女は、どれほど赤ちゃんがほしかったことでしょう。まいにち祈りながら待ちましたよ。きっと神さまが赤ちゃんをくださるだろうと思い、たくさんたくさん祈って、待ちつづけました。でも、神さまは、まだくださらないのです。

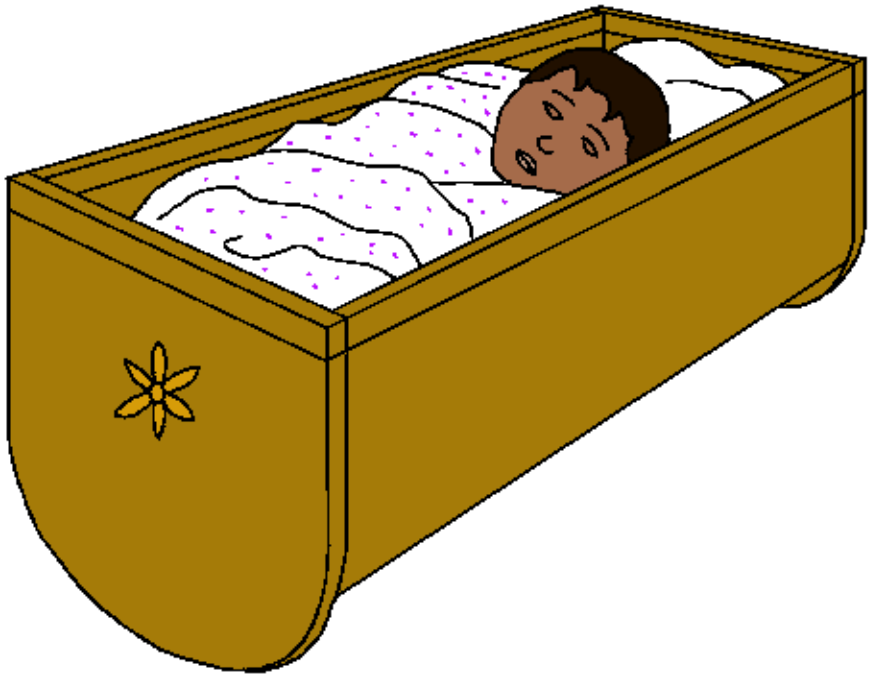


まい年、ハンナは神さまの礼拝堂へ、礼拝に行きました。ある年のこと、ハンナは神さまに祈り、こうやくそくしました。「神さま、もし男の子をくださるのなら、わたしはその子をいつまでも神に仕えるものして、さし出すでしょう。」

その礼拝堂に、もう年をとっているエリという祭司がいました。かれは、ハンナが祈っているようすを見てこう思いましたよ。きっとハンナはぶどう酒をのみすぎたにちがいない。かの女の口びるは、ずっとうごいているのに、声はぜんぜん聞こえてこないじゃないか。そこで、エリはハンナをしかりました。

「いいえ、ちがうのです。わたしはお酒をのんではいません。」ハンナは、エリにこう言いました。「わたしは、どうしても子どもがほしいのです。ですから、もしくださったら、神にその子をささげるとやくそくをしていたのです。」それを聞いたエリは、「どうぞ　平安が与えられますように。」と言って、ハンナをはげましました。「ハンナよ、イスラエルの神さまは、きっとあなたのねがいを聞き入れてくださるだろう。」これを聞いたハンナ、ほんとうにうれしくなりましたよ。

そのすぐ後のことです。ハンナはほんとうにうれしそうです。なぜってね、主がかの女をおぼえていてくださり、祈りにこたえられたのです。とうとう、ハンナとエルカナにサムエルというかわいい男の子が生まれたのです。サムエルというのは、「神にかなえられた」という意味ですよ。でも、ハンナは、主とやくそくしたことを、まだおぼえているでしょうか。ちょっとしんぱいですね。



じつは、まい年、神さまの礼拝堂に礼拝に行っていたハンナが、どういうわけか行くのをやめてしまったのです。ああ、どうしましょう。

ハンナはやっぱり神さまとのやくそくをやぶってしまうつもりでしょうか。いいえ、しんぱいしなくてもいいのですよ。ハンナは、ただサムエルが少し大きくなるのを、まっていただけなのです。主の礼拝堂へ行って、エリのお手伝いをして、神さまに仕えられるぐらい大きくなるまでね。だから、サムエルが少し大きくなると、ちゃんと

神さまは、ハンナが心から神を信じ、したがっていることをたいそうよろこばれ、それからも3人のむすこと2人のむすめをくださいました。もちろん、ハンナはまい年、神さまの礼拝堂に礼拝にいきましたよ。そして礼拝堂へ行くたびに、サムエルのためにあたらしい服を作り持っていきました。

サムエルは、ただ１人(ひとり)でエリのお手伝(てつだ)いをしていたわけじゃないのです。エリには、ホフニとビネハスという2人(ふたり)のむすこがいました。かれらもまた、エリのお手伝(てつだ)いをして、サムエルといっしょにはたらいていました。

けれども、かれらは「神(かみ)さまなんかどうでもいいよ(ぃ)。」と言って、よくないことばかりしていました。

お父さんのエリが、2人に神さまにしたがうようにたのんだときでさえも、聞こうともしないで、やっぱり悪いことばかりしていました。エリはむすこたちに、「出て行っておくれ。もうおまえたちは、ここではたらくことはできない。」ときっぱり言うべきだったのですね。でもエリはそう言わなかったのです。

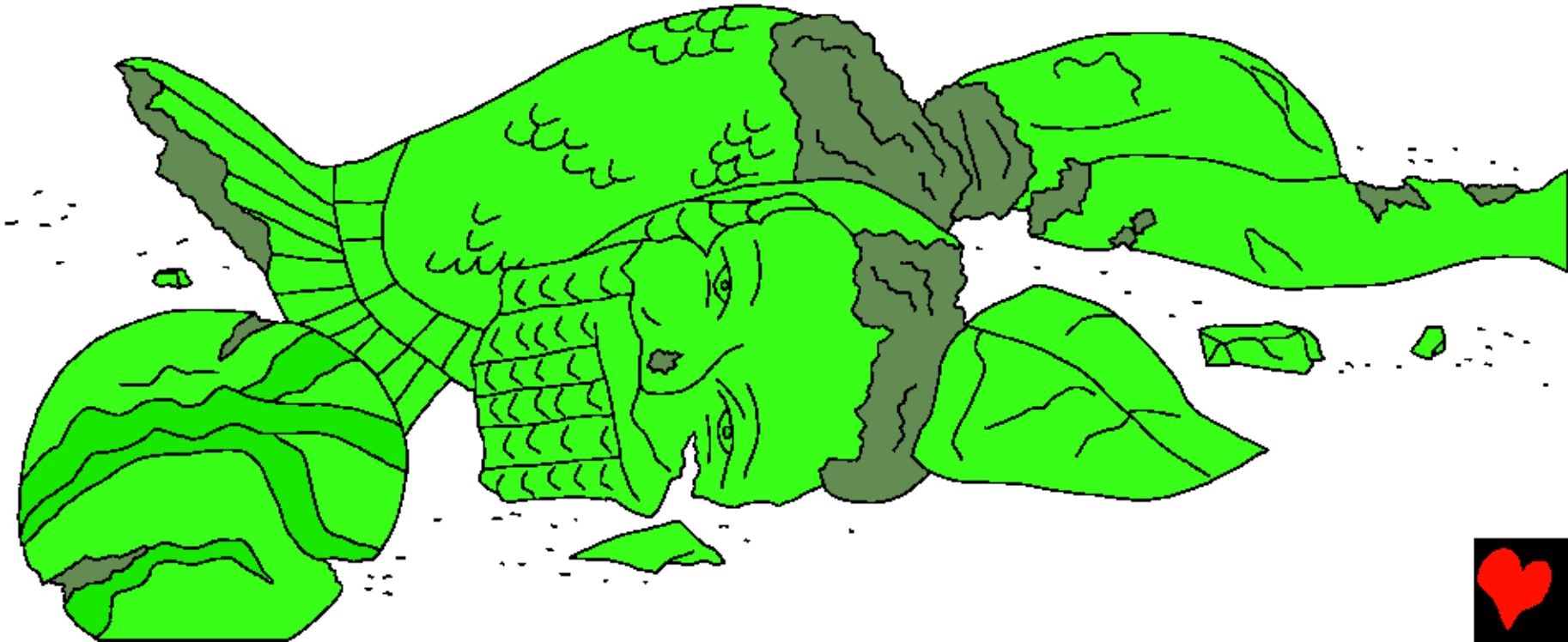
ある夜のことです。サムエルはどこからか「サムエル、サムエル」と自分の名前を呼んでいる声が聞こえてきました。「きっとエリがぼくを呼んでいるんだ。」と思ったサムエルは、「ぼくはここにいますよ。」とへんじをしました。ところが、「サムエル、わたしは、おまえを呼んでいないよ。」とエリはこう言うのです。同じことが３回もありましたよ。
そのとき、エリはわかりました。神さまが、サムエルを呼ばれているのだと。そして、神さまは、サムエルに何か話そうとされていることがね。

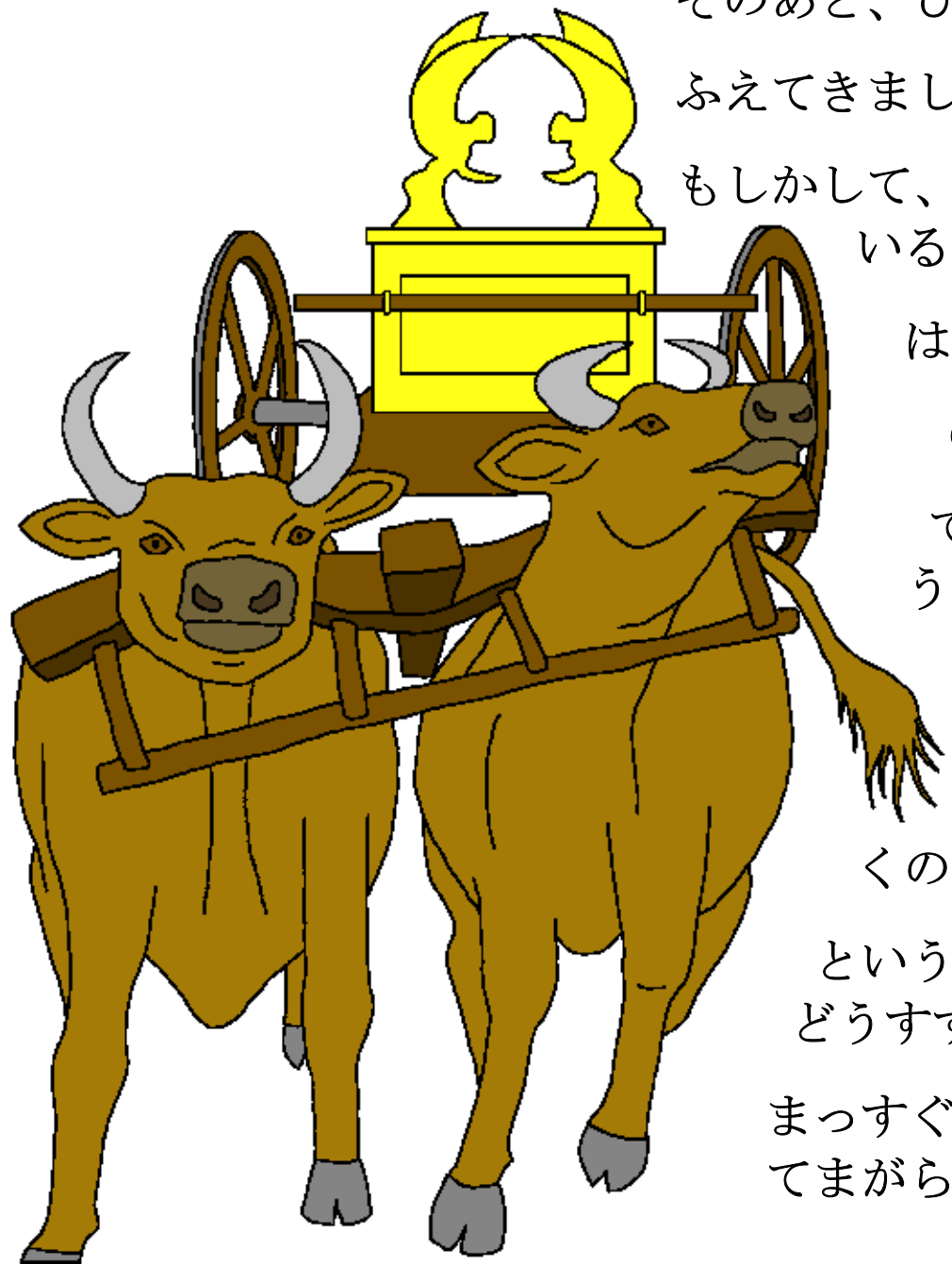
エリは、言いました。「サムエル、もし、もういちど名前を呼ばれたら、こう言うんだよ。はい、主よ、話してください。あなたのしもべはここにおります、ってね。」さて、それからまた、「サムエル、サムエル」って声が聞こえてきました。そしてそこで、神さまは、サムエルにとても大切なことを、話されたのです。

つぎの日の朝、エリはサムエルを呼んで、たずねました。「さあ、話しておくれ。主はおまえにいったい何を話されたのかね？」それは、エリにとって良くない話だったのです。でもまだ子どものサムエルは、神さまが話されたとおり、すべてエリにつたえたのです。それは、エリにとってひどく悪い話でした。神さまは、こういわれたのです。「わたしは、エリの家族の人たちみんなほろぼしてしまうだろう。なぜなら、エリのむすこ、ホフニとビネハスがあまりにもひどすぎるからだ。」

神さまの言われたことは、やっぱりほんとうでした。ペリシテ人との戦いのあいだ、エリの２人の悪いむすこたちは、イスラエルの軍のところに、神の箱をはこびました。ところが、敵であるペリシテ人は、その神の箱をかれらからうばい取り、それにまたたくさんのイスラエル人も殺したのです。もちろんホフニとビネハスも、このとき殺されてしまいました。これを聞いたエリは、ほんとうにがっくりとしました。かれは、イスから落ちて、首を折りとうとうその日のうちに亡くなったのです。

神さまの箱をもちかえったペリシテ人は、それからというものいろいろな悪いことがおこるようになりました。かれらは、その神さまの箱を、にせの神タゴンの神でんに、はこんだのですが・・・。つぎの日の朝、にせの神タゴンが、うつむきに落ちてたおれているのです。「どうしたことだろう。」と人々は、タゴンをもとのところにおきました。ところが、そのつぎの日の朝です。タゴンがまた落ちているのです。ひどいことに、こんどはあたまも、手も足も、そしてどう体も、みんなばらばらになっていましたよ。





そのあと、ひどい病気が広がり、だんだん死ぬ人がふえてきました。ペリシテ人は、こう思いました。もしかして、神さまが自分たちにばつを与えられているのかもしれないって。そこで、かれらは２とうのお母さん牛に、神さまの箱をのせた荷ぐるまをはこばせましたよ。

でもね、そのお母さん牛の子牛たちは、うちにおいておきました。もし、ここでお母さん牛たちが、まっすぐイスラエルに向かい子牛のところをはなれて行くのなら、神さまがばつを与えられているということなのです。さあ、お母さん牛は、どうすすんだのでしょうか。そう、まっすぐまっすぐ、イスラエルに向かいましたよ。決してまがらずにね。

さて、そのころサムエルはどうしていたでしょう。もう大人になっていたサムエルは、イスラエルの人々にこう言いました。「もし、みなさんが、心から主を信じ、主のもとに帰るなら、主はわたしたちをペリシテ人の支配から、救いだしてくださるでしょう。」人々はみんな、いつも神さまに仕え神さまのことばを伝えるサムエルを信じ、そのことばにしたがうようになりました。だからね、それから神さまはいつでもサムエルがいるイスラエルを、ペリシテ人から守ってくださいましたよ。

神さまに仕える少年サムエル

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

サムエル記上 1章 - 7章

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

詩篇 119:130

おわり

この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしってほしいと、
思っていらっしゃるのです。

神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

けれども、神さまは、あなたをとても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書３：１６